

【デジタル版】美術資料

どのように
活用されていますか？

今号では、『デジタル版美術資料』を実際に授業で使われている先生のお声をお届けします。

授業やインタビューの動画はコチラ▶



私がお答えします



ふじた すぐる
藤田 優 先生

三田学園中学校高等学校 教員
(兵庫県三田市)
いくつかの中学校や高等学校、
大学に勤務ののち、2022 年から
同校に勤務。

Q.1 学校のデジタル環境はどのような状況でしょうか？

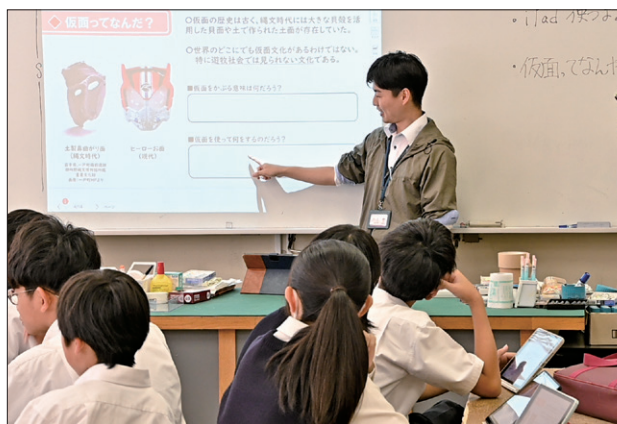
A プロジェクタと AppleTV（プロジェクタと iPad を無線接続できる機器）が各クラス教室と多くの特別教室に配備されています。全生徒には iPad が配布（リース）されており、必要に応じて授業支援アプリなどを活用した授業が展開されています。

Q.2 『デジタル版美術資料』をどのような場面で活用されていますか？

A 主に、授業の導入部分における（作品）鑑賞や技法説明といった資料としての使用が多いです。



Q.3 特に活用されているページは？
また、どのようなコンテンツ（拡大画像や動画など）をお使いでしょうか？



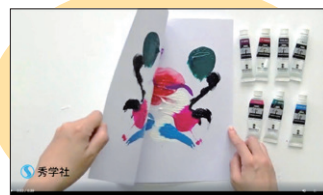
▲「学園に棲む精霊の仮面をつくろう」を題材にした授業の一場面。導入として「仮面ってなんだ？」という問いかけから。プロジェクタや iPad を駆使して、生徒たちに鑑賞を通して、仮面の表現や役割について問いかける。

A 2 学期には仮面づくりの授業を行いました。その中で仮面の拡大画像を鑑賞したり、「色と形をイメージに（モダンテクニック）」のページを使ってデカルコマニーなどの技法の動画を参照したりしました。

活用コンテンツ例



▲「世界の祭りと仮面」より



▲「色と形をイメージに」より
デカルコマニーなどの技法の動画

Q.4 『デジタル版美術資料』を使用し、本の『美術資料』と比べて、どのような変化がありましたか？

A デジタル版では図版を拡大して見ることができるので、本では確認できなかったような、より細かい部分に目を向けさせることができます。また、それぞれの課題などで技法を説明するときには、動画を参考資料として使っています。これにより、随分と生徒に伝えやすくなりました。



【デジタル版】美術資料

デジタル教材開発プラットフォーム
まなび

『美術資料』の内容+ビューワ機能で、
ICT を活用した新しい学びを実現！

ご興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。

体験版や商品
詳細はコチラ！



Q.5 生徒のみなさんの反応はいかがでしょう？

A 授業での使用のみならず、生徒自身の興味・関心に沿って自由に見てコンテンツを探せるというのは、動画を含めて楽しいようです。図版を拡大して見ることができるため、生徒の深い学びにつながっているように思います。

見たいところがよく見える！



Q.6 『デジタル版美術資料』を、授業の「一斉学習」と「個別学習」と、それぞれどのように活用できるでしょうか？

A 一斉学習では、作品の紹介や、全体的に注意すべき点を伝える際に使います。一方で個別学習では、選択肢を提示し、その中から生徒が自ら選ぶことで、学習意欲の向上につながるように工夫しています。

Q.7 『デジタル版美術資料』を通して、生徒のみなさんにどのような学びを得てほしいですか？

A 豊富な参考図版や制作過程、動画コンテンツが充実していますので、その中から生徒自らが選択することで、自分の好きな表現を見つけてほしいと思います。同時に、授業以外でも自分の興味・関心のあることについて自主的に調べていくことで、より深い学びにつながってほしいとも思います。

私は、中学1年生を受け持っています。当生徒たちにはさまざまな形や色彩を使うことで、まずは落書きに近い思考から、自身が考えたことを表現できるようになってほしいと考えています。



★ 藤田先生の授業をご覧になって ★



よこた まなぶ
横田 学 先生

『美術資料』著者、『デジタル版美術資料』監修者、京都市立芸術大学名誉教授

教室に入って最初に感じたことは、中学生にとってコンピュータやスマホの活用が日常であり、『デジタル版美術資料』は何の抵抗もなく受け入れられているということです。

『デジタル版美術資料』は、定番の美術資料集である、本の『美術資料』をベースに、豊富な制作手順の動画や鑑賞作品などのコンテンツが追加されています。さらに関連するページへのワンタッチでの移動、画像の拡大、学びの足跡を残すふせん機能などデジタルならではの機能も充実しています。

多くの生徒は、そのコンテンツや機能を、タブレットを自在に操作し難なく見ることができます。しかし、それを授業として「学び」に結びつけるためには、教師の教授方略（しかけ）が必要不可欠となります。参観させて頂いた授業では、『デジタル版美術資料』の活用方法として、

- ① プロジェクタで投影し、生徒が同一のコンテンツを見て学習する「一斉学習」
- ② 『デジタル版美術資料』を個々の生徒がタブレットで主体的に活用する「個別学習」

この①と②の活用方法を組み合わせて授業を進めておられました。まず、「一斉学習」で『デジタル版美術資料』のどこを見て、何を調べ何を考えるのかを確認し、次に「個別学習」で生徒一人一人が主体的に探求し、最後にその探求結果を「一斉学習」で生徒全員が共有する。

今回の「一斉学習」→「個別学習」→「一斉学習」の授業展開は、とても有効な教授方略だと思いました。

N E X T 次号「まなび! net Vol.18」では、藤田優先生と横田学先生との対談を予定しています。



秀学社の美術学習サポート

授業だけでなく家庭学習などにもご活用ください。

- 『美術資料』の詳細や、ワークシートなど各種ダウンロード資料を提供しています。

秀学社Webサイト
<https://www.shugakusha.co.jp/>



まなび! net へのご意見や著者へのメッセージ、ご質問など、「お問い合わせフォーム」よりお気軽にお寄せください。

お問い合わせフォーム **ココから!**
https://www.shugakusha.co.jp/form_otoiawase/

先生の声をお聞かせください。

